

## 第 12 回小笠原諸島世界自然遺産候補地科学委員会 地域連絡会議

### 議 事 要 旨

<日時> 平成 21 年 12 月 10 日（木） 16：30～18：00

<場所> 父島地域福祉センター1F 多目的ホール

- <議事> ( 1 ) 前回地域連絡会議以降の各種会議の結果報告について  
( 2 ) 推薦書について  
( 3 ) 管理計画について  
( 4 ) 各行政機関のこれまでの取組について  
( 5 ) その他（連絡事項等）

<要旨>

- ・委員会は公開で行われた。
- ・議事進行は、環境省関東地方環境事務所国立公園保全整備課 中野課長が行った。
- ・議事に先立って、事務局から、小笠原諸島の世界自然遺産推薦に際しては、これまでの参画団体などの活動・取組が推進となった旨の発言がなされた。
- ・前回会議以降の各種会議（平成 21 年度第 3 回科学委員会及び第 11 回地域連絡会議）の結果報告として、事務局から概要報告を行った。
- ・推薦書について事務局から、ユネスコの世界遺産センターに仮提出した推薦版の修正版を提示し、修正部分は、ユネスコからの形式的な点の修正指示（図面の追加・変更）、海外の専門家からの助言（重複箇所の整理、構成変更など）などを基としたものであることを説明した。推薦書についての質疑応答はなく、本推薦書とすることについての了解を得た。
- ・管理計画について事務局から、科学委員会での意見の紹介とそれに対する応答結果の説明を行い、本推薦時の管理計画として内容確認を行った。前回会議同様、産業と暮らしなどについて質疑が行われ、世界自然遺産登録後の自然環境保全と産業・暮らしに関する新たな共生型のデザインが必要であるという意見が出された。質疑の結果、管理計画書の提出版とすることについての了解を得た。
- ・アクションプランについて事務局から、アクションプランは付属資料であること、アクションプランと管理計画の関係などについて説明を行った。アクションプランについての質疑応答はなく、本プランとすることについての了解を得た。
- ・今後のスケジュールについて事務局から、来年は推薦書の提出と IUCN による現地調査があり、とくに後者が次の重要なイベントである、などの説明を行った。現地調査への対応内容については、今後行政と地元で協議していくこととした。
- ・各行政機関の取組について事務局から説明を行ったほか、各参画団体からもそれぞれの取組についての報告が行われた。
- ・地域連絡会議については、科学的な局面から生活と産業の面などに議論の重点を移し、今後も継続していくこととした。
- ・議事終了に際し、事務局から、今後とも行政と参画団体などが一体となって登録に向けて活動協力していきたい旨の発言がなされた。
- ・議事における発言の概要は、以下のとおり。

## 議事概要

開会に当たって、事務局を代表して、小笠原村 森下村長及び環境省関東地方環境事務所 阿部所長より挨拶。

### 1) 前回会議以降の各種会議の結果報告について

- ・環境省自然環境局自然環境計画課 羽井佐世界遺産専門官より資料1について説明を行った。
- ・以上の説明を受けての質疑応答はなかった。

### 2) 推薦書について

- ・環境省自然環境局自然環境計画課 羽井佐世界遺産専門官より資料2について説明を行った。
- ・以上の説明を受けての質疑応答はなかった。ただし、あわせて説明を行った参考資料1の今後の登録に向けたスケジュールについて、以下のような質問があった。

委員：IUCNの現地調査において、審査のスタッフが直接、観光協会のような団体にヒアリングに来るようなことがあるのか。

環境省：例えば、審査側から地元のエコツーリズムに関与している団体と話がしたいというような要求があれば、行政を通じて協力要請する可能性はあるが、予告無しに団体を訪れるというようなことは想定していない。

委員：IUCNの現地調査時に、どのようなことをすれば小笠原の良さをアピールできるのか、またどのようなことを行う必要があるのか。知床の事例があるにしても、知床と小笠原では条件が異なるので、観光協会としても考えあぐねているところである。

環境省：今後、参画団体など地元とIUCNの現地調査対応に関する作成会議をしていきたい。

委員：了解した。

### 3) 管理計画について

- ・環境省自然環境局自然環境計画課 羽井佐世界遺産専門官より資料2について説明。
- ・以上の説明を受けて、以下のような質疑応答・検討が行われた。

委員：前回の地域連絡会議、科学委員会での発言を繰り返すことになるが、7～8頁の「管理の目標と基本方針」の「(3)人と暮らしと自然との調和」のところに、産業への「支援」あるいはそれと同等の文言を書き加えてほしい。世界自然遺産になることで、とくに有人島において、さまざまな面（外来種、農作物、観光など）での新たな問題が生じてくることから、小笠原方式の共生型の新しいデザインが不可欠となってくる。この共生努力に対する産業への支援無くして、有人島における環境保全は不可能である。これらの点から、事務局の応答内容では、納得するに不十分である。

環境省：管理計画の構成上、管理計画書の7～8頁は基本方針を示すところであり、具体的なことは9頁以降に記述している。その中でも、とくに深く関わってくるのは26頁の「5) 自然と共生した島の暮らしの実現」部分である。ここでは長期目標を示し、管理機関がここに記述してある内容を目指していくことになる。また、これまでの取組と対応方針の中で「自然と共生した産業の振興」についても、項目を立てて記述している。

委員：説明のような個別なことはいままでも行われており、今後は、世界自然遺産登録後の仕組み全体を考え、共生型の農業をどうしていくのか、というようなことに対処して行かなくてはならない。例えば、32頁の図4-1で見ると、島の暮らしに関わるのは「小笠原のネコに関する連絡会議」と「エコツーリズム協議会」くらいであり、今後の共生に関する問題への受け皿がない。このような状態のままで、世界自然遺産登録に向けて進んでいくのは問題である。

環境省：図4-1は概念図であり、またこの管理計画は、あくまで大きな方針を示すためのものである。

委員：この管理計画書では、外来種対策は具体にかなり踏み込んでいるのに比べると、産業や暮らしについては、抜け落ちているというレベルにさえ思える。

環境省：指摘のように、外来種対策部分の記述が突出しており、暮らしの部分についての記述は少ないが、暮らしについても少なくとも必要な項目は頭出しをしている。

委員：地域連絡会議は今回の開催で終了し、継続はなされないのか。

環境省：地域連絡会議は、これまで科学委員会の報告のような場になっていた。今後については、地域に関わるのが中心となっていくので、科学委員会において「科学委員会のあり方」を議論しているように、地域連絡会議のあり方についても同様に考えていきたい。

委員：継続の有無について質問したのは、世界自然遺産登録に対する、地域としての心構えと対応についての議論の場があってもよいと考えているからである。遺産登録と住民の生活を突き合わせていくことが必要となってきたが、現状の地域連絡会議はこのようなことを理解する場になっていない。

環境省：参画団体に参加の意向があることが前提だが、地域連絡会議は存続させていく予定である。今後は、とくに有人島における生活・産業と生態系の保全及び調和について、どのような具体的な問題があって、どう解決して行かなくてはならないのか、などの議論を続けていきたい。そのためには、行政側も新たな予算を確保していくことが必要になってくると考えている。

#### 4) 各行政機関のこれまでの取組について

- ・環境省小笠原自然保護官事務所 立田首席自然保護官より、環境省資料（弟島のウシガエルとノブタの根絶など）について説明を行った。
- ・林野庁関東森林管理局小笠原諸島森林生態系保全対策室 原田室長より、林野庁資料（固有森林生態系の修復）について説明を行った。
- ・東京都小笠原支庁 今井世界自然遺産担当副参事より、東京都資料（聳島列島及び父島列島のノヤギ排除など）について説明を行った。
- ・東京都小笠原村企画政策室 岩本副参事より、小笠原村の取組（スローガン募集、ステッカー作成等）について説明を行った。
- ・参画団体（小笠原村観光協会、母島観光協会、小笠原自然文化研究所）からも、それぞれの取組についての報告がなされた。
- ・以上の説明を受けて、以下のような質疑応答が行われた。

委員：東京都に質問したい。弟島のノヤギの残存個体数はどのくらいか教えてほしい。

東京都：海上からはもう確認されないほど、低密度になっている。確実な目視確認数は4個体（うち2頭は発信機装着個体）だが、ほかにも数頭残っている可能性があり、残存推定数は10個体以下という状況である。

委員：林野庁にお願いしたい。東平の自然観察路沿いでも外来種駆除を実施しているが、道端の伐採木を早めに除去してほしい。

林野庁：伐採木は、木道の整備などに利用、また、今後も利用していく予定である。残ったものは、極力、取り除けるようにしたいと考えている。

委員：小笠原村に質問したい。今後の観光動態の見通しについて聞きたい。

小笠原村：国交省直轄事業での調査があり、その調査項目に指摘の点も含めてもらっている。結果が出れば、報告したい。

#### 5) その他（連絡事項等）

・環境省関東地方環境事務所国立公園・保全整備課 中野課長より1月に推薦書の本提出が行われる、などのスケジュールの再確認を行った。

閉会に当たって、事務局を代表して、林野庁関東森林管理局東京事務所 安藤所長、東京都小笠原支庁 長谷川支庁長より挨拶。

以上